文学部　英米文学科（3 つのポリシー）

教育の理念

英米文学科は、建学の理念を踏まえ、英文学・米文学・英語学の３分野を柱として、深く広い人文教養によって、人間の本質の理解および社会の諸問題の解決に多角的に取り組むことで、国際社会に貢献できる幅広い教養と専門性を身につけた人材の育成を目的とする。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

英米文学科は、教育の理念に基づいて定められた下記の５つの力を身につけ、所定の期間在学し、必要な科目を 124 単位以上修めた学生に対して卒業を認定し、学位を授与する。

(DP1)建学の理念を実践する力〔理解、関心、意欲、態度、主体性〕

建学の理念を踏まえ、広範で多様な人文学領域の基礎的知識を積極的に修得し、問題の発見と問題の解決の能力を有している。

(DP2)幅広い教養、多様性の理解と尊重〔知識、理解、関心、意欲、態度、主体性、多様性、協働性〕

英米を初めとする英語圏の文学および英語学についての体系的な知識と幅広い教養を身につけ、現代社会が抱える諸問題に多角的な観点から的確に対応できる。その際、国内外の多様な文化・価値観の違いを理解しようと試み、他者を尊重することができる。

(DP3)情報分析力と問題解決力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

多様な情報を収集・分析して適正に判断・思考する力を身につけるとともに、問題の発見や問題の解決の前提となる効果的な表現力・発信力を身につけている。また、国内外の多様な資料やデータを解析し、解釈や評価を下す能力がある。

(DP4)コミュニケーション能力〔技能、思考力、判断力、表現力〕

レポートや論文等の作成能力およびプレゼンテーション技術を身につけ、自らの考えを論理的かつ明確に伝えて、他者と主体的に協働することができる。

(DP5)専門分野の知識・技能の活用力〔知識、技能、思考力、判断力、表現力、主体性、多様性、協働性〕

体系的に修得した各専門分野の知識・技能を活用し、豊かな創造力と表現力を持って社会の発展に貢献することができる。また、国際的視野に立って、直面する現実社会の中で、知識・技能を活かすことができる。

英語学においては、古今の英語の特質を実証的に解明することによって、広く英語の言語文化を体系的に把握する。英文学・米文学においては、中世から現代にいたる古今の英語で書かれた文学の的確な読

解を通じて、広く英語圏の人々の感性のありようを理解する。言葉をめぐって、文化や芸術を学ぶことは自分を再発見することに通じる。

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と学習評価の観点のマトリクス表

◎：特に重点を置いている ○：重点を置いている			学修評価の観点											
			知識	理解	技能	思考力	判断力	表現力	関心	意欲	態度	主体性	多様性	協働性
卒業認定・学位授与の方針	DP1	建学の理念を実践する力							◎	◎	◎	○		
	DP2	多様性の理解と尊重	○	◎					○	○	◎	○	◎	
	DP3	情報分析力と問題解決力			○	◎	◎	○				○		
	DP4	コミュニケーション能力			○	○		◎				○	○	◎
	DP5	専門分野の知識・技能の活用力	◎		◎	◎	◎	◎				◎	○	○

※学習評価の観点は「学力の三要素」と「学習指導要領」に基づく。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

英米文学科では、国際人の素養としてまず日本人の基本精神を支える仏教への理解を深め、人文・社会・自然にわたる幅広い学問分野を修得し、移り変わる現代社会の様々な要求に対応できる総合的・基礎的な力を養う。その上で、中世から現代までのイギリス文学やアメリカ文学、文学そのものを成立させている英語学を三つの柱として、豊かな感受性とともに人間と社会に対する深い洞察力を養い、様々な文化環境において柔軟に対応し、国際化社会において協調して活躍できる人材を育成することを念頭に置く。

教育内容、教育方法については下記に定める内容に従う。

1.教育内容

1) 専門基礎教育として、1 年次に必修科目を置く。高校で修得した英語力を確認し、大学での専門教育への矯渡しとする「英語演習」、2 年次以降の専門教育への導入として、イギリス文学・アメリカ文学・英語学の基礎的な知識、研究方法、問題の発掘の仕方などを学ぶ「作品講読」、「英語学概論」を開講する。

2) より専門性の高い講義科目として、「イギリス文学史Ⅰ」、「イギリス文学史Ⅱ」、「アメリカ文学史」、「英語史」を通して編広い見通しを持てるようにし、特講・演習科目で各領域・各時代の特殊な内容を学び、自らの専門分野の知織と問題意織をさらに高める。

3) 3- 4 年次にかけて、少人数クラスによる演習科目(ゼミ)を組み合わせることで、専門発展教育を行なう。問題提起、分析と読解、討論、論述を実践的にこなすことにより、自立的で自主的な学習態度を徹底させ、自らの見解を論理的に構築できるよう育成を目指す。

4) 3 年次までの学修をもとにし、より限定された専門分野を深く考究し、卒業論文として成果をまとめる。専門的な調査・研究・資料作成・発表の成果を形にする。

2.教育方法

1）高校での学習と専門的な大学での研究に必要な知識や方法の習得が可能になるように基礎力の磁認を丁寧に行う。

2）多様な価値観、時代背景、文化的土壌を踏まえつつ、様々な角度から文献や資料を読み解くことができるように授業を展開する。

3）事前に演習の履修説明会を行い、ゼミの内容を知らせることにより、ミスマッチを出来る限りなくす。少人数制の授業により、他者と協働する力やコミュニケーション能力を鍛えるのに適した授業を行う。また、アクティブ・ラーニングを取り入れた授業とする。

4）演習科目(ゼミ)履修生全体に対する指導とともに、学生の個別の指導によりきめ細かな指導を行う。個別指導を通して、担当教員と学生との密接なコミュニケーションを促し、学んだ知識の理解を深めるようにする。

3. 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）と教育課程の編成・実施のマトリクス表

◎：特に重点を置いている。○：重点を置いている。

	科目群等	履修単位	配当学年	DP1	DP2	DP3	DP4	DP5	各科目群のねらい
全学共通科目	仏教と人間	4	1	◎					仏教の教えと禅の精神について理解を深め、宗教に対する正しい認識を身につける。
	新入生セミナー	2	1	○	○		◎		高校までの学びから大学での学びへの転換を図り、自律的で自主的な学習態度を身につける。
	キャリア教育	2	1-2			◎			社会的・職業的自立、社会・職業への円滑な移行に必要な力を身につける。
	実用英語	1	1-2				◎		課題がある「話すこと」「書くこと」に 重点を置いた英語教育を行う。
	日本語リテラシー教育	2	1				◎		日本語の「読むこと」「書くこと」について 社会人としての基礎的なレベルを身につける。
	ICT 教育	2	1			◎			ICT スキル及び ICT リテラシーを身につける。
	人文・社会・自然・ライフデザイン分野	2-4	1-4		◎				多角的な知識と深い教養を体系的に身につける。
	外国語科目	1-2	1-2		◎		○		外国語について社会人に求められる十分なレベルを身につけ、異言語・異文化に対する多角的な理解と教養を深める。
	健康・スポーツ分野	1-2	1-4		◎		○		スポーツの実技能力や健康に関する理論を身につける。
専門教育科目	導入教育	2-4	1					◎	専門分野で 4 年間学ぶために必要な基礎的な方法を身につける。
	講義科目	2-4	1-4					◎	専門分野の知識を体系的に身につける。
	演習科目	2-4	2-4	○		○	○	◎	少人数クラスで指導教員との密なコミュニケーションを取り、 議論や発表を行う。
	ゼミ	4	3-4	○		○	○	◎	専門分野の講義や演習で身につけた知識をもとに、少人数クラスで 指導教員との密なコミュニケーションを取り、 議論や発表を行い、卒業論文作成に必要なリテラシーや視点を発展させる。
	卒業論文	8	4	○		○	○	◎	4 年間の学びの集大成として、自ら設定した研究テーマに関する論文を作成する。

入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）

英米文学科は、駒澤大学及び文学部入学者受け入れの方針（アドミッション・ポリシー）に則り、以下のとおり入学者選抜を行います。

1．英米文学科が求める学生像

（AP1）英語や日本語の運用能力があるだけでなく、英語圏の社会・歴史・文化に関する基礎的な学力が身についている。［知識、理解、技能］

（AP2）本学の建学の精神に基づき、英語圏の世界に興味を抱き、言葉や人間に対する理解を深めようとする意欲と目的意識をもつ。特に、英米文学・英語学の学問分野に強い関心があり、それを支える幅広い知識・読書経験を有する学生を求める。［意欲、関心、態度］

（AP3）入学後に、プレゼンテーションやディスカッションなどが支障なくできる能力がある。日頃から、広く国際社会の問題に目を向けており、自身の意見を積極的に表現することができる。［思考力、判断力、表現力］

（AP4）英語圏の文学・文化を深く学ぶとともに、英語圏以外の多様な社会の文化や伝統を尊重し、異文化交流に一定の理解がある。［主体性、多様性、協働性］

２．入学前に修得することが望ましい教科、取り組むべき活動や学習習慣

・高等学校における「英語」及び「国語」の基礎的知識の修得に努める。
・英語圏の歴史・文化を理解し、その多様性を尊重する視点を身につける。
・英語で書かれた様々な文学作品に触れることで、言葉が紡ぎだす文化や思想を学び、自己の再発見に努める。
・英語コミュニケーション能力の向上を図るため、他者との議論や協働活動を高め、自らの知見を広げると共に、国際交流イベントに参加する等、自主性・積極性を身につける。

３．求める学生像と入学者選抜方法のマトリクス表

◎:特に重点を置いている。〇:重点を置いている。

入学制度		選抜方法	AP1	AP2	AP3	AP4	各入学制度のねらい
一般選抜	全学部統一日程	教科	◎		〇		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。
	T 方式	教科	◎		〇		
	S 方式	教科	◎		〇		
大学入学共通テスト利用選抜	前期	教科	◎		〇		高等学校で修得した教科の理解度を重視し、特に知識や思考力に優れた学生の受け入れを目的とする。

自己推薦選抜	総合評価型	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、学科の求める学生像と適合する学生の受け入れを目的とする。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		面接・口頭試問	◎	◎	◎	◎	
特別選抜	スポーツ推薦選抜	出願書類	○	○			スポーツ競技で高い能力を持ち、スポーツにおいて本学に貢献することのできる学生の受け入れを目的とする。競技部の部長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	指定校推薦選抜	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的とする。高等学校長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	附属高等学校等推薦選抜	出願書類	○	○		○	本学の教育の理念を特によく理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で学内でリーダーシップを発揮できる学生の受け入れを目的とする。高等学校長の推薦を得られた者を対象として選考を行う。
		事前課題	◎		○		
	社会人特別選抜	出願書類	○	○			社会人に大学の門戸を開くことで、生涯を通じて学修に取り組める環境づくりに資する。また、社会経験を有する学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。
		小論文	◎	○	◎	◎	
		教科	◎				
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	国際型選抜	出願書類	○	○			国際的感覚を身につけた、個性ある勉学意欲旺盛な学生の受け入れにより、学内の活性化を図る。
		事前課題	◎		○		
		面接・口頭試問	◎	◎	◎	◎	
	外国人留学生選抜	出願書類	○	○			国籍・文化的背景の異なる留学生の受け入れにより、学内の多様性を確保し活性化を図る。日本学生支援機構が行う「日本留学試験」の受験を出願条件とする。
		日本留学試験（成績）	○				
		筆記	◎				
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	編入学者選抜	出願書類	○	○			大学入学後の進路変更や社会人の学び直しに対応し、学生の多様な将来設計を可能とする。また、多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。大学・短期大学・高等専門学校等を卒業した者や他大学在学中の者等を対象とする。
		筆記	◎				
		教科	◎				
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	
	指定校編入学者選抜	出願書類	○	○			本学の教育の理念を理解し、本学で学ぶ意欲が高く、かつ学力・人物とも良好で他の学生の模範となる学生の受け入れを目的とする。また、多様な経験を有する学生受け入れにより、学内の活性化を図る。
		面接・口頭試問	○	◎	◎	◎	